

研究専攻（専門領域）		文化構造研究専攻（アメリカ研究）		学籍番号	06CS001
氏名	植田 弘子	ローマ字	UEDA Hiroko	国籍 (留学生)	
修士学位論文名	『怒りのぶどう』におけるスタインベックのメッセージ ーカリフォルニアの偏見からの救出ー				
提出年月日	2009年1月13日		指導教員	有賀 夏紀	
体裁 (論文)	61頁 (1頁文字数 1200字)		言語	日本語	
別冊添付資料等					
キーワード	スタインベック 『怒りのぶどう』 オーキー 貧窮				
<p>本論文では、スタインベックがオーキーに対するカリフォルニアの偏見をなくし、オーキーに人間の尊厳を取り戻させる目的で『怒りのぶどう』を書いたことを示すものである。</p> <p>第1章では、スタインベックが『サンフランシスコ・ニュース』に書いた移住民の生活について記事から、『怒りのぶどう』の基礎になったカリフォルニア州における農場労働者の実態に対するスタインベックのジャーナリストとしての視点を論じた。さらに彼が知人に宛てた手紙から『怒りのぶどう』を執筆するに至った心理的経緯を考察した。</p> <p>第2章では、スタインベックの根本的思想である非目的論的思考に重点を置き、彼がアメリカの資本主義を否定していないことを論じた。スタインベックは『疑わしき戦い』を書くために共産党員と接触したため、共産主義者という汚名を着せられたが、書簡集や『怒りのぶどう』本文を基にスタインベックの政治的スタンスを示した。彼の考え出した非目的論的思考は、社会をありのままに受け止め、そのなかで人がいかに順応していくかという見解をもつため、アメリカの資本主義経済を受け入れていたことを論じた。逆にスタインベックはアメリカが共産主義思想に傾いていくことに危機感をもち、オーキーが共産主義化しないために政府が対策を打ち出す必要があると考えていたことを示した。</p> <p>第3章では、スタインベックが『怒りのぶどう』に込めたメッセージを考察した。第1のメッセージは、オーキーに対するカリフォルニアの人びとの偏見を暴き、偏見をなくすことであった。第2のメッセージは、オーキーと呼ばれる人たちに対して人間の尊厳を失わずにアメリカ市民として恥じない生き方をするように奨励することであった。第3のメッセージは、『怒りのぶどう』におけるジョード家の人びとを、生き続けようとする不屈の精神を持つ人たちであることを讃美することであった。本論文では、彼らをオーキーと蔑むカリフォルニアの人たちと同様に、彼らもまた生き続ける権利をもち、生き続けようとする強い意志と力をもつことを、スタインベックが『怒りのぶどう』で表そうとしたことを示した。</p>					